

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2016. 11  
No.279

### “TPM優秀継続賞”へ挑戦

TPM優秀継続賞の受賞までには、まず12月8日のTPM診断があり、来年3月に第一次審査、9月に第二次審査が実施されます。

今回のTPM優秀継続賞の大きな特色は、イナテックの会社方針をTPMの手法を使い展開するというものです。イナテックの会社方針展開とTPM活動は決して別物ではなく、TPMそのものが会社方針と同期化され、よりスリムで強靱な企業体質を作ることなのです。

つまり、山田先生や矢野先生の指導、業務報告会やアメリカ経営も同じ目的のためにやっていることです。

皆さん、一度頭の中を整理して、今回の受賞をチャンスと捉え、リセットしようではありません

んか。少しでも皆さんの負担を減らし、改革に集中できるようにしてまいります。

### 2016年度中間業務報告会

10月24日から25日にかけて、業務報告会で皆さんの仕事のフォローをさせていただきました。ありがとうございました。

皆さん、大変頑張っていました。得意先不良も工程内不良も機械故障件数も減っています。2016年度後半は「機械故障だけに絞って、全員で改善しよう」とお願いさせていただきました。もちろん、それ以外の項目の監視は必要です。

そして次の問題は、間接（製造・販売）の人員が多すぎて、利益を圧迫しているということです。他社と比較しても群を抜いて悪化しています。経営体質の大原則は、「売上高伸び率V人員増加率」です。売上が伸びておらず、なおかつ利益が低下している中で人員を増やすことは絶対にやつてはならないことなので、仕事の見直し（仕事の整理・整頓）をしてください。

機械故障が減少すれば、稼働率（生産性）が

向上します。生産性が向上すれば、残業時間が減ります。そして、変化点がなくなれば、工程内不良も減少しますし、お客様での不良も必ず低減します。

2016年度後半は機械故障50%低減を達成しましょう。

### 日本語教育が国際人材を育てる

グローバル社会で活躍する上で重要な資質は、論理的な思考力や洞察力、豊富な想像力であり、それらは主に母国語によって培われるものである。また幼少期から青年期は言葉を通じて個人のアイデンティティが形成される重要な時期でもある。したがって、初等教育では正しい日本語の読み書きをしっかりと学び、そして日本語で物事を論理的に考え、伝える能力を養うことが先決だと考える。

英語教育を推進する前に、むしろ日本語による基礎教育を充実させるべきだと思う。

(10月21日付 日本経済新聞)

「私見卓見」より抜粋

今では幼少の頃から、またはバイリンガルに育てようと、英語で日常生活を送っている家族もいらつしやるようですが、やはり母国語をしっかりとマスターすることが節理であり、絶対条件ではないでしょうか。

### 学びが人間を創る

日本の書店の多さは世界一です。日本文化の根幹にあるものは活字文化である、とさえ断言できるほどです。ですが、その文化の在り方に陰りが出てきているのです。

書店の大部分の書棚を占め、売れ行きの中心となっているものは、コミック、雑誌、いわゆる“軽チャー”が幅をきかせ、活字に溢れたいわゆる“書籍”が駆逐されつつあるのです。

幕末期、アジアの多くが西欧列強の植民地攻勢に蚕食(さんしょく)される中で、なぜ日本だけが明治維新を成し遂げ独立を守ることができたのか。

その核心は、一般庶民の民度が高かったからだった、というのはいまや定説です。

高い民度、それは具体的には識字率の高さで

ある、ということが出来ます。

それを支えたのが江戸時代に全国に広がった寺小屋であつたことは確かです。全国津々浦々で文字に接する機会があり、文字を読み楽しみ、喜び、感動が日本人の感性を養い、民度を高め、それが力になったのです。まさに、日本文化の核心ここにあり、です。

イギリスの前身相ブレア氏も「7歳の児童たちの読書量が将来の世界における英国の位置そのものである」と発言しています。

鉄は熱いうちに打て、です。活字を読む楽しさ、喜び感動を次の世代を担う子たちには非ともつないでいく必要があります。

(「生き方のセオリー (藤尾 秀昭著)」

より一部抜粋)

### 四一

出世之道、即在涉世中、不必絶人以逃世。了心之功、即在盡心内、不必絶欲以灰心。

俗世間を超越する方法は、この俗世間を渡る生活そのものの中にあるのであって、かならずしも世人とまじわりを絶って山林に隠れる必要はない。また、見性悟道の工夫は、この自己の本心をきわめ尽くすことそのことの中にあるのであって、かならずしも欲を絶ち心を死灰にする必要はない。

まさしく、前述の「日本語教育が国際人材を育てる」に通じるところが大だと思えます。

イナテックも『致知』という素晴らしい雑誌に出会い、毎週木鶏会を開催しています。この木鶏同好会を通して、人間味あふれる「フェイス・オフフェイス、ハート・ハート」の相互啓発型の企業をめざし、明るく、元気なイナテックにしたいと思っております。

日本語を大切に、日本文化を大切に次世代に引き継ぎ、世界のリーダーたる日本にせねばならないと思っております。

